

宿泊施設のトイレ事情

株式会社エイチ・アイ・エス
バリアフリートラベルデスク

伴流 高志

勤務先

〒150-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-33-8 SG 1階

1.はじめに

排泄（トイレ動作）は、頻回で複雑な行為のひとつです。自宅内の主たる生活環境では、獲得した排泄方法や手順によって可能な行為であっても、外出先の非日常環境においては、初めて遭遇する不慣れたトイレ環境や生活リズムの変化、多様な食事摂取（アルコール等も含む）で、排泄のサイクルが日常と異なることが考えられ、尿・便失禁のリスクが高くなります。外出先での失禁は、日常のそれとは異なり、他人の視線もあることから、大きな自信喪失と外出不安に繋がるのが考えられます。

同行者（介助者）管理による水分摂取や食事制限、薬による排泄コントロールも課題解決のひとつであると考えますが、本題では、宿泊を伴う外出を安心して快適にする為の環境理解と備えについて考察し、それらの不安を取り除く為の、心構えと対策を提案する。

2.国内における宿泊施設の客室内トイレの特徴

(1) 宿泊施設の種類

日本国内における宿泊施設の様式は、ホテル（ホテル営業）、旅館（旅館営業）、民宿（簡易宿所営業）等、様々な形態が存在し、それぞれの客室内容が異なることが、大きな特徴と言えます。

主に、利用宿泊数が多いホテルと旅館と比較すると、ホテルの客室内トイレは洋式が中心であるのに対し、旅館は洋式と和式が混在しているのが現状です。近年の宿泊施設の洋式トイレを兼ね備えた客室には、入口に20センチ以上の段差がある「ユニットバス」タイプが多く、車椅子利用者や歩行困難な施設利用者には、段物理的に利用し難く、バリアフリー化への改善を求められています。

各施設の総数及び定義は、下表1を参照。

表1.	
宿泊施設数営業別	平成21年2月末現在の旅館業の営業許可施設数は、84,411施設。うち、ホテル営業施設数は9,603施設、旅館営業施設数は50,846施設、簡易宿所数（民宿、カプセルホテル、小規模旅館等）は23,050施設となっている。（厚生労働省健康局生活衛生課、衛生行政報告例より）
ホテル営業のトイレ条件	便所は、水洗式であり、且つ座便式のものがあり、共同用のものにあつては、男子用及び女子用の区分があること。
宿泊施設の定義	日本においては、旅館業法の第二条に規定された旅館業で、施設の構造や設備によってホテル営業・旅館営業・簡易宿所営業・下宿営業に分類しており、それぞれの内容は、次のような規定となっている。「ホテル営業」とは、洋式の構造及び設備を主とする施設を設け、宿泊料を受けて、人を宿泊させる営業で、簡易宿所営業及び下宿営業以外のものをいう。 「旅館営業」とは、和式の構造及び設備を主とする施設を設け、宿泊料を受けて、人を宿泊させる営業で、簡易宿所営業及び下宿営業以外のものをいう。 「簡易宿所営業」とは、宿泊する場所を多人数で共用する構造および設備を主とする施設を設け、宿泊料を受けて、人を宿泊させる営業で、下宿営業以外のものをいう。「下宿営業」とは、施設を設け、一月以上の期間を単位とする宿泊料を受けて、人を宿泊させる営業をいう。

(2) ユニットバスの普及

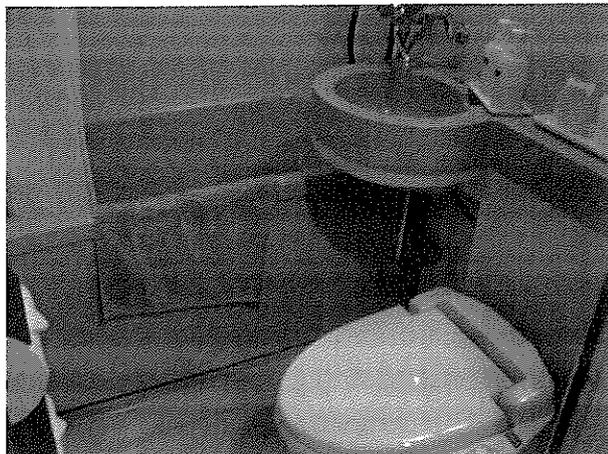
「ユニットバス（3点ユニット）」は、1964年（昭和39年）の東京オリンピックで宿泊施設確保の為、急ピッチで建設が進められた「ホテルニューオータニ」で、内装工事の省力化を実現する為に、日立化成工業（現：ハウステック）と東洋陶器（現：TOTO）の2社で開発されました。

それまで主流だった現場生産型バスルーム（職人数人と施工期間1ヶ月を要していた）とは異なり、建築部材を工場で生産して現場で組み立てるプレハブ工法の為、工事が簡単で工期が短いというメリットがあり、その後の高度経済成長期で、ユニットバスを採用する宿泊施設が多く作られるようになりましたが、バリアフリー化の大きな妨げの要因の1つになっているデメリットもある。

アメリカ合衆国では、労働組合の力が強い為、バスルーム施工による内装工事の省力化から必要な職人の雇用を守るという観点からユニットバスの使用は制限されており、またADA（障害者差別禁止法）

からも、結果的にユニバーサルなデザインが確保されることとなり、「ユニットバス」は日本国内固有(国内にも一部、普及地域があります)の様式になっている。

写真. ユニットバスイメージ



(3) 温水式洗浄便座の普及 (ウォシュレット)

1980年に販売され、1998年には国内・海外の市場を合わせて1000万台、2011年には3000万台を超え、ウォシュレットを含む国内温水洗浄便座の家庭での普及率は71.6%に到達しました。(表2. 年表)

国内宿泊施設においては、1991年のホテル向けウォシュレット販売開始以来、急激に増加しており、宿泊予約の際に事前確認することが出来るようになっています。

海外宿泊施設は、海外での普及率が低い為に導入している施設が少ないのが実情である。(表3. 主な温水洗浄便座がある海外宿泊予約サイト)

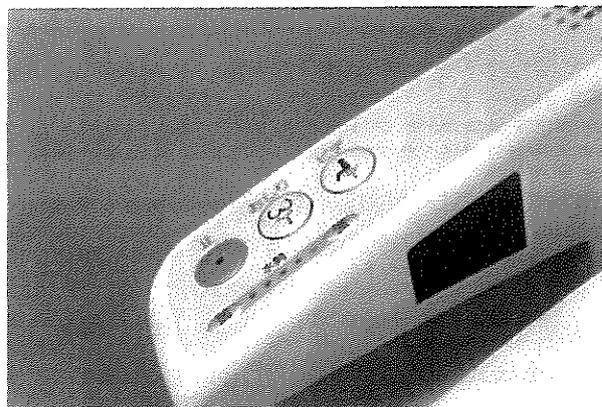
日本で普及した理由と、海外で普及しない理由は、下表4を参照下さい。

2013年	世界の販売拠点は、北米、ブラジル、ドイツ、中国(北京)、香港、台湾、韓国、シンガポール、インド、フィリピン、タイ、ベトナム、アラブ首長国連邦まで広がる。(生産拠点は除く)
2012年	初代ウォシュレットGが機械遺産に認定(日本機械学会)
2011年	累計販売台数3000万台到達 ハイアットリージェンシーワイキキのリージェンシークラブ全88室に導入
2005年	累計販売台数2000万台到達
1998年	累計販売台数1000万台到達

1995年	旅行や出張等、外出先に携帯できる「トラベルウォシュレット」発売開始
1991年	ホテル向けの「パブリック向けウォシュレット」販売開始
1980年	ウォシュレットを商標登録する
1964年	東洋陶器(現・TOTO)がアメリカから温水洗浄便座「ウォッシュエアシート」を輸入、販売を開始

JHC/温水洗浄便座のある海外ホテル http://www2.jhc.jp/contents/selection-h/washlet/top.php アップルワールド/ウォシュレット付きのホテル http://appleworld.com/apl/longstay/theme/1181038_250654.html 楽天トラベル/温水洗浄便座特集 http://travel.rakuten.co.jp/kaigai/kwd/washlet/
--

日本で普及した理由	①清潔好きな国民性 ②発売開始時期が好景気 ③CM戦略の成功 ④水事情(軟水且つ、不純物が少なく故障の原因が少ない) ⑤治安が良い為、公共施設に導入しても安心
海外で普及しない理由	①海外のトイレ文化(タバー視) ②シャワーとトイレが同室にあることが多く電気系統の設置に不安があるという考えがある



補足: 現在、TOTOでは欧米の普及戦略に力を入れています。欧州にはビデを使う文化が根付いているため普及のスピードが他の地域と比べて速いのではないかと考えています。
※1. ウォシュレットの名称はTOTOの登録商標(日本第1665963号等) INAXの同タイプ商品名称は、シャワートイレ。

(4) オストメイト対応

直腸・膀胱がん等が原因で臓器に機能障害を負い、手術によって、腹部へ人工肛門や人工膀胱の排泄口を造設した人を「オストメイト」と呼びます。オス

トメイトの人は括約筋がないため便意や尿意を感じたり、我慢することができないため、便や尿を溜めておくための袋(パウチ)を腹部に装着しています。パウチに溜まった排泄物は一定時間ごとに便器や汚物流しに捨てる必要があり、その際にパウチや腹部を洗浄する必要があります。そのための特別な設備を備えたトイレが、最近では設置されるようになってきている

バリアフリー法では、ホテル又は旅館の客室内のトイレ基準において、オストメイト対応の設置を求められていないが、併設の関連施設等にはトイレ内にオストメイト配慮設備(水洗器具)を設けた便房の設置を義務付けています。(建築物は施設内で1ヶ所以上)トイレ設置状況は、表5のサイトにて案内しています。

表5.

トイレ設置の現状

<http://www.ostomate.jp/ost/>

(公益社団法人日本オストミー協会サイトより)



3. 宿泊施設のバリアフリー化の取り組み

宿泊施設・客室内のトイレのバリアフリー化は着実に進み、改善されているが、バリアフリールーム(ユニバーサルルーム等も含める)以外の一般客室においては、バリアフリー化に対応するユニットバスに改善するのに、大規模な改築が必要になる為、中々進まない現状です。そのような中で、様々な工夫と改善の取り組みを紹介する。

(1) 共有スペースに多目的トイレ(車椅子対応等)

(2) 各種福祉用具の準備

ホテルで工夫しているお客様事例

(1) 吸水シートを引く

(2) 間に合わないとき用に、尿瓶

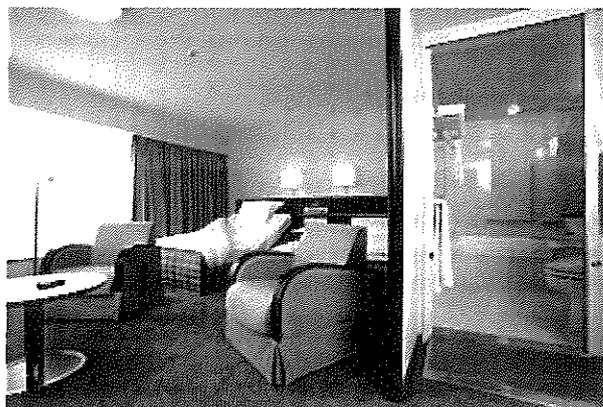
(3) 災害用トイレ(ダンボール)持参(上体が安定している方)

(4) 消臭スプレー

(3) 各種福祉用具の持ち込み

(4) 先進的な取組み事例紹介

①京王プラザホテル(東京・新宿)



②富士レークホテル(山梨・河口湖)

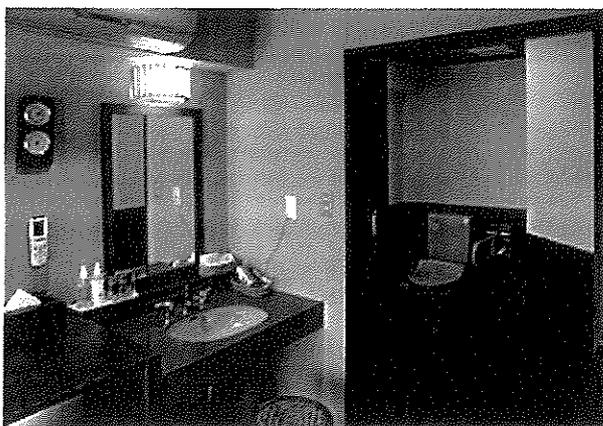


表6.

2011年	バリアフリー新法・移動等円滑化の促進に関する基本方針の改正
2006年	バリアフリー新法(高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律) ホテル東横インにユニバーサルデザイン対応化委員会設置
2002年	京王プラザホテル(東京・新宿)新ユニバーサルルーム10室をオープン、全35室に拡充
1995年	旅行や出張等、外出先に携帯できる「トラベルウォッシュレット」発売開始
1994年	ハートビル法施行(高齢者、身体障害者等が円

	滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律)
1993年	シルバースター登録制度開始(全国旅館生活衛生同業組合連合会)
1991年	ホテル向けの「パブリック向けウォシュレット」販売開始
1988年	京王プラザホテル(東京・新宿)ユニバーサルルーム15室設置
1970年	日本初超高層ホテル京王プラザホテル(東京・新宿)にユニットバス設置(株式会社ハウステック)
1964年	ホテルニューオータニ(東京・千代田)にユニットバス設置(FRP製)
1963年	ホテルカプセル型バスユニット製造開始(株式会社ハウステック)

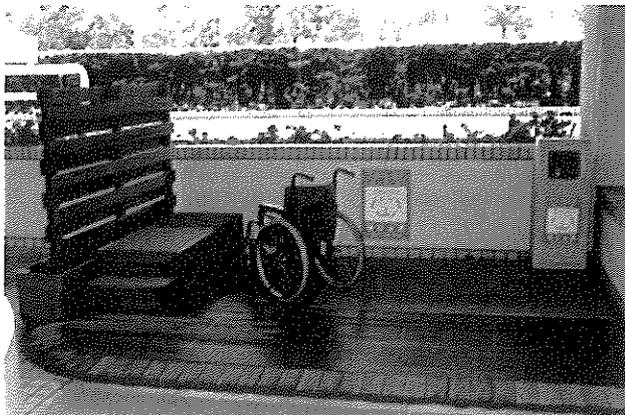
*宿泊を伴う交通手段の最新情報

長時間の空の旅でも、国内大手(日本航空及び全日空)航空会社が採用した「ボーイング787」にもウォシュレットが搭載され、更に快適にお過ごしいただけるようになりました。全日空「ボーイング777-300ER」「ボーイング767-300ER」にも導入されています。

又、2006年3月から就航を開始した郵船クルーズが所有・運航している日本最大の客船「飛鳥II」にも全ての客室にウォシュレットが搭載されています。

*補助犬トイレの最新情報

京王プラザホテル(東京・新宿)南館ロビーの外側に「補助犬専用トイレ」を設置。床面より高い段を設置し、そこでトイレをさせることで車椅子ユーザーが後片付けをしやすようにしたほか、床面には足や車椅子に優しいソフトな感触の点字ブロックを設置するなど、ユーザーに使いやすく、やさしい施設となっている。又、車椅子の取り回しのしやすいウッドデッキと犬の足に優しい素材の人工芝を組み合わせた仕様となっている。



おわりに

*宿泊施設のトイレ

参考資料

日ポリ化工株式会社・ホームページ

<http://www.nippori.co.jp/outline.html>

京王プラザ東京・ホームページ

<http://www.keioplaza.co.jp/stay/rooms/universal.html>

ハウステック株式会社

<http://www.housetec.co.jp/products/bathroom/>

国土交通省ホームページより

厚生労働省ホームページ「ホテル・旅館概要」より

TOTO株式会社ホームページより

株式会社LIXILホームページより

公益社団法人日本オストミー協会ホームページより

表7.

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行令(改正平成十九年九月二十五日政令第三百四号)

(ホテル又は旅館の客室)

第十五条 ホテル又は旅館には、客室の総数が五十以上の場合は、車いす使用者が円滑に利用できる客室(以下「車いす使用者用客室」という。)を一以上設けなければならない。2 車いす使用者用客室は、次に掲げるものでなければならない。

一 便所は、次に掲げるものであること。ただし、当該客室が設けられている階に不特定かつ多数の者が利用する便所(車いす使用者用便房が設けられたものに限る。)が一以上(男子用及び女子用の区別があるときは、それぞれ一以上)設けられている場合は、この限りでない。

イ 便所内に車いす使用者用便房を設けること。

ロ 車いす使用者用便房及び当該便房が設けられている便所の出入口は、次に掲げるものであること。

(1) 幅は、八十センチメートル以上とすること。

(2) 戸を設ける場合には、自動的に開閉する構造その他の車いす使用者が容易に開閉して通過できる構造とし、かつ、その前後に高低差がないこと。

二 浴室又はシャワー室(以下この号において「浴室等」という。)は、次に掲げるものであること。ただし、当該客室が設けられている建築物に不特定かつ多数の者が利用する浴室等(次に掲げるものに限る。)が一以上(男子用及び女子用の区別があるときは、それぞれ一以上)設けられている場合は、この限りでない。

イ 車いす使用者が円滑に利用することができるものとして国土交通大臣が定める構造であること。

ロ 出入口は、前号ロに掲げるものであること。